来月の人権に関する月間・週間・記念日　３月　「自殺対策強化月間」・・・　９月は自殺予防週間　３月は「自殺対策強化月間」

十島村教育委員会だより　令和４年２月号

さわやかトーカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

写真：ＪＡ書道展金賞　平島中　新田真子さん

「ワクチン接種便で七島を巡って」

十島村教育長　木戸　浩

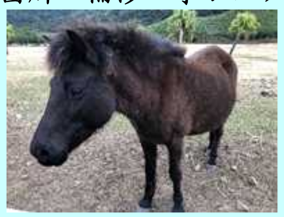
普段であれば口之島から入港するはずの定期船ですが、今回はワクチン接種のための特別ダイヤということで、まず最初に薄暗い中６時30分平島に到着しました。体育館にはワクチン接種の準備が整えられており、住民の方々が順次集合されていました。校庭もあまり広くはない場所に、立派な子育て施設が建っており、遊具もいくつか整っていました。校舎は、当時のままで工夫しながら教育活動に邁進している様子が伺えました。山海留学生の平島寮も見学させていただきました。現在７人が在籍し、勉学及び豊かな自然の中で、平島を満喫しているようでした。

次に諏訪之瀬島では、分校から本校になり、校長室と体育館が新しく新設されていました。昔の集会室が、

子育て施設「すわっこ園」として利用されていました。諏訪之瀬島の山海留学生寮を見学している時に、御岳が噴煙を上げて歓迎してくれました。児童生徒は授業のため、中は見学できませんでした。空港跡地の滑走路も現在の様子を確認できました。

次に、口之島に到着し、コミセンで昼食をとり、子育て施設「くちっこ園」を見学してから学校に向かいました。整然とした校舎の中で、学んでいる児童・生徒の姿が印象的でした。体育館では班分けされた住民の方々が順番にワクチン接種をされていました。来年度「くちっこ園」と山海留学生寮も併せて建設する計画が進んでいます。

１日目の最後は、中之島でした。トカラ富士と呼ばれる雄々しい御岳がどっしりと構えていました。
校庭の一角に多世代交流施設と子育て支援施設がありました。校舎も塩害で爆裂した箇所の補修工事がスタートしていきます。授業の様子なども見せていただき、放課後の部活動の様子も見学できました。その後、歴民館や天文台、トカラ馬の生息状況も確認できました。広々とした牧場で悠々自適に闊歩しているトカラ馬が元気そうでした。



２日目は悪石島からのスタートでした。ボゼ祭りが行われるテラとボゼユネスコ登録記念施設を見学し、学校に向かいました。始業前に三線の練習をしている中学生が元気よく挨拶してくれました。ここの体育館の落成式に参加した記憶が蘇りました。現在活躍中のバナナマンの日村さんが、はだかボゼになられたのも思い起こしまして懐かしさを感じたところでした。完成した山海留学生寮は寮監も決まり、受け入れ態勢が整っていました。

次に小宝島に入り、来年建設予定の山海留学生寮及び教職員住宅の場所に案内していただきました。隆起珊瑚の島なので、建設に向けての準備が大変そうでした。学校では、こちらも本校に昇格し、校長室が設置されていました。また、こちらも立派な体育館が完成しており、そこでワクチン接種が順次進められていました。少人数ながら島全体が活気を帯びているように感じました。

最後に宝島でした。岸壁の壁画は今も変わらず存在感がありました。イギリス坂を通ってコミセン前で停まり、子育て施設「いまきら園」を見学しました。年季の入った施設で、未就学児が元気にしていました。「いまきら園」も来年度に建設が決まっています。学校では、授業の様子や校内の施設を見せていただき、子どもたちと一緒にかるた大会や的当てゲーム、児童・生徒会からのインタビューも受けました。その後、島を一周しました。

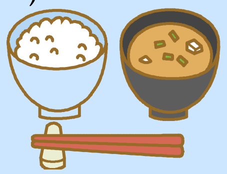
全島回って感じたことは、施設・設備として郵便局やガソリンスタンドなどが新しくできていて、うれしく感じました。少し気になるところは松くい虫の被害が大きくなっているところでした。たくさんの懐かしい方々と出会えたことも非常にうれしいことでした。これからの人口対策として、やはり山海留学制度を更に進めるとともに、役場と共に地元の方々やＩターン・Ｕターンなどを積極的に受け入れて定住促進に努め、村に活気を取り戻す施策を講じていきたいと思います。

【新聞に投稿】

令和3年12月20日 南日本新聞「若い目」掲載

「みそ汁をつくった」　平島小五年　鈴木　千洋

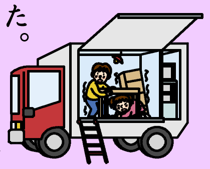
　朝ご飯にみそ汁を作りました。調理実習で作ったみそ汁を寮で作りました。
実習のみそ汁と変えたところが二つあります。一つ目は、だしをいりこでとったことです。実習ではかつお節でしたが、いりこでだしをとるとにおいがちがう気がしました。
　二つ目は、ショウガしぼり汁を入れたことです。かぜをひいている人が何人かいたので、体が温まるようにと入れました。「おいしい」という声が聞こえてきて、うれしかったです。
　埼玉からやってきて、平島の寮生として生活して半年以上がすぎました。
　他の寮生に朝ご飯を作ってもらうことがあったので、ぼくは作れてうれしかったです。今夏は、少し手伝ってもらったので、冬休みには家族に自分で作ったり、なべでご飯を炊いたりしてみたいです。



令和３年１２月１７日南日本新聞「若い目」掲載

「手本となり身を守る」　小宝島小四年　三浦　和奏

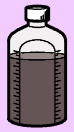
　九日の三時間目、小宝島で震度４の大きな地震が起こった。その時、私は理科の実験をしていた。ミョウバンや湯を使った実験だ。理科室で地震が起きると危ない。薬品がこぼれる。お湯も熱い。理科室の机の下は隠れられない。
　地震が起きると、私は、机にしがみついた。隣の教室の中学生は外に出ていた。わたしたちもすぐに外へ出た。地震が収まると校庭にはこだから園の子も来た。「こわい」と泣きそうな子もいた。
　先生の話を聞くと、悪石島では震度５強だったそうだ。震度４でも大きな地震なのに、悪石島もきっと園の子たちがこわがっているだろう。その日、私たちは集団下校となった。家に大人がいない私は学校で待った。家に帰ると母が防災バッグを出していた。また大地震が起こるかもしれないからだ。その後は大きな地震は起こらなかったが、いつ大地震が起きて津波が来るか分からない。私は、上学年だ。小さい子の手本となり、自分の身は自分で守ろうと思う。



令和３年11月26日南日本新聞「若い目」掲載

「薬物乱用防止教室」　平島小三年　奥薗　悠

　薬物乱用防止教室で、学校薬ざいしの先生にたばこや薬物のきけんせいについて教わりました。大麻は見た目はふつうの植物に見えますが、大麻を使った薬を飲んだりすると、死にいたることもあるようです。また、たばこをすうと集中力がなくなったり、先から出るけむりによって周りの人のけんこうにえいきょうをあたえたりすることも知ることができました。薬ものみ方をまちがえてしまうと、とてもきけんであることも学ぶことができました。たばこや薬物は一度でも手を出してしまうとどんどんはまり、やめることがとてもむずかしいです。私は今回、きけんな物にぜったい手を出さずに、みんながけんこうで幸せにくらせる社会になってほしいと感じました。

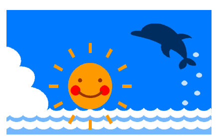


子供のうた　令和三年十月二十日南日本新聞掲載

頭の中で絵をかいた

頭の中で絵をかいてみた
水平線に夕日がしずむ絵
水面がキラキラとかがき
空も赤くじんわり光り
いまにも夕日が
しずみそうな絵を
頭の中でかいてみた
そして　もう一枚
陽が黄緑色に
明るく光り
海も空も
明るく光る絵を
頭の中でかいてみた

（平島小六年　大城慶士）



十島村で学ぶ

【悪石島で学ぶ】

悪石島小学校６年　藤澤　優真

ぼくは２年生の時に、埼玉県から引っ越してきました。小さいころから、人の話を聞く事や会話をすることが苦手で、うまくいかないことが、時々ありました。母といっしょに悪石島に初めて来た時に、ぼくは、すぐに「ここに住みたい」と思いました。悪石島には、何度見ても時間が止まって欲しいと思うぐらい、きれいな所がたくさんあるからです。ヘリポートや港から見える空いっぱいに広がる星。御岳から見下ろすと島全体に広がる緑や底が見えるほどの透明な荷積み海岸。温泉の気持ち良さも負けてはいません。悪石島の良さは、いっぱいありすぎて伝えきれないほどです。

でも、ぼくが、「ここに住みたい」と思った一番の理由は、島の方々の優しさでした。島の方々は、誰にでも優しいのです。引っ越してきたぼくに、たくさん声をかけてくださいました。あれから、約３年が過ぎようとしています。ぼくは、６年生になり、小学校最高学年として、下級生のお手本となれるように頑張っています。来年はいよいよ中学生です。僕は将来、悪石島の役に立てる仕事に就き、ずっと島にいたいと思っています。そのためにも、島の伝統を大切にしながら、中学校生活を一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

【平島小・中学校からのメッセージ】

教諭　西山　泰佑

「いろんなことができるようになったね」、「たくましく成長しているね」。平島小学校とたいらっこ園に通う３人の我が子らは、親戚や知人にこのように声を掛けてもらうことがあります。私は、それを横で聞きながら、有難く思うのと同時に、平島に来てから本当に多くのことができるようになったなあと感じています。特に、人付き合いの仕方や伝統を大切にしようとする様子もこれまで以上に見られるようになりました。

我が子だけではなく、学校の児童生徒の様子を見ても同じようなことが言えます。平島の豊かな自然や様々な伝統行事、そして何より島民の皆さんとの関わりを通して平島で生活する子どもたちは「生きる力」を確実に身に付けているように感じます。また、十島村にある７つの学校との交流も、いつも勉強になることばかりです。私自身の生活を振り返ってみても、十島村での生活、平島での生活をするようになってから、たくさんの「初めて」に出会うことで、これまで知ることのなかった世界にたくさん飛び込みました。勉強することの楽しさを改めて感じさせてもらう日々です。これからも十島村や平島の生活にどっぷりと浸りながら、子どもたちと一緒に、できなかったことができるようになっていく毎日を実感していきたいです。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

いつも、様々な場面でお世話になっています。ありがとうございます。今後も、授業や研修などの機会を通して勉強させてください。よろしくお願いします。